

地区社協(地区社会福祉協議会)とは

<地区社協とは>

地域住民に最も身近な社協として、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指し、地域の人たちが「**自分たちの地域は自分たちで良くしていこう**」という気持ちで組織された民間の任意の団体です。

地域の問題は公的なサービスだけでは全ては解決できませんし、住民個人ではできることも限られています。そこで、地域で活動する各組織等を「タテ糸」とすれば、それらを福祉の視点で結びつける「ヨコ糸」として活動するのが地区社協です。

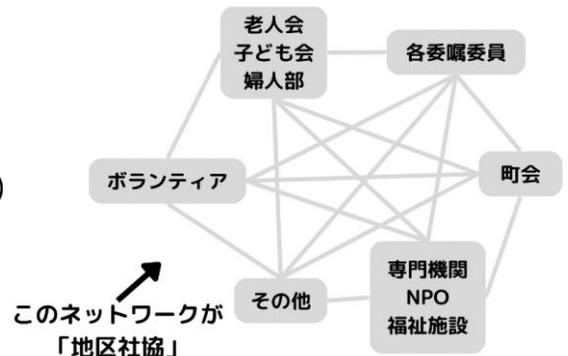
<地区社協の特徴>

「自主性」 地域の住民同士が自分たちの住んでいる**地域の困りごとを自分たち自身の問題と受け止めて取り組む**

「公共性」 関係機関等と連携・協働しながら解決に向けて対等な立場で協議し、共同募金等の助成金を福祉のためのお金を有効に地域で活用する
(関係機関：区役所、区社協、地域ケアプラザ等)

<地区社協の構成 = 会員によるネットワーク組織>

- 自治会・町内会 ○民生委員・主任児童委員
- 地域活動団体(保健活動推進員、老人クラブ、婦人部会など)
- 関連分野の団体(スポーツ推進員、青少年指導員、学校など)
- 当事者の団体(介護者の会、子育てグループ、障害者団体など)
- 福祉の施設(地域ケアプラザ、高齢者施設、児童施設など)
- 福祉事業を行う団体(NPO 団体など)
- ボランティア(個人、グループ) 等々



<地区社協の財源>

- ・主に横浜市社協、鶴見区社協からの補助金
- ・連合自治会・町内会からの助成金等

<困りごとを解決するには、「話し合い」が大切！>

【話し合いのポイント】

- ・子育て中や介護中の人、障がいのある方等、多様な人が話し合いに参加していること。
- ・支え手⇔受け手」の関係を超えた、お互い様の関係になること。
- ・新しく設定しなくても、今ある会議や打ち合わせを活かすこともできます。

【困りごとの共有と検討】

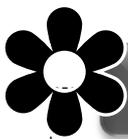
各団体が課題と感じていることを地区社協として把握し、優先順位を考え、解決方法を検討します。具体的な解決に取り組みます。

<困りごとの解決のための様々な活動>

- ・ 見守る : 見守り、声掛け運動など→住民生活・課題の早期発見、連絡
- ・ ふれ合う : ふれあいサロン、各種交流会、配食サービス、リハビリ教室など
- ・ 支える : 地域内ボランティアグループの支援など
- ・ 学ぶ : 各福祉講座・講演会、ボランティア講座、意見交換会など
- ・ 知らせる : 地区社協だよりの発行など(まちしるべえ)地域への広報活動
- ・ 募る : 賛助会員、ボランティア、バザー開催、フードドライブなど

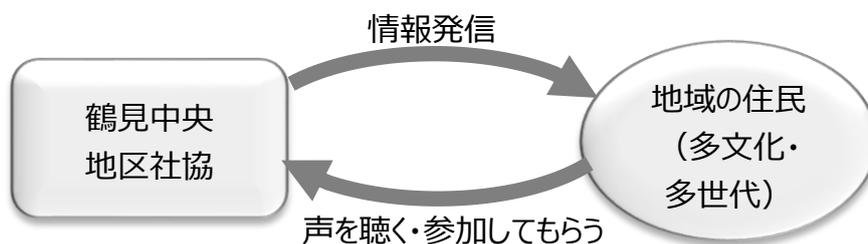
※すでに鶴見中央地区で実行されていることもたくさんあります。

例：社会を明るくする運動ミニ集会、小学校新入生への学用品の贈呈、配食サービス、各団体（地区民児協含む）への助成 等々



鶴見中央地区社協の運営のところがけ

- ・各組織・団体等の活動を尊重しつつ、情報交換、団体同士の助け合い、協働した活動について話し合っていきます。
- ・全ての住民が安心して暮らせる地域を目的として、町会へ加入していない世帯も対象としたさまざまな活動を行っていきます。
- ・鶴見区は、横浜市内で外国につながる方が2番目に多い区です。さらに鶴見中央地区は特に多くの方々が住んでおり、多文化、多世代交流型の活動が求められます。
- ・イベントでは、参加側だけでなく、主催側、ボランティアも一緒に楽しめるような企画を立てるよう心がけます。
- ・参加組織・団体に加え、地域の方々の意見に耳を傾けるよう心がけます。
- ・「鶴見・あいねっと」の地区別計画と一体的に進めます。



まずは…

- 「鶴見・あいねっと」の地区別計画の振り返りをし、次期計画につなげます。
- 広報の充実のため、地域に幅広く親しまれていた「まちしるべえ」を復刊させます。
- 「企画会」として、これらについて話し合う場を継続します。
- 「みんなの会」「みんプラ広場」など、参加者や支援者等の区別なく、多文化や多世代が交流できる取り組みを応援します。

～オール鶴見中央地区で！～

